

香取
遺産

ゆうてんしょうにんめいごうあと

vol.203

祐天上人名号跡

久保区に伝わる文化財に、祐天上人名号跡(市指定有形文化財・書跡)があります。写真のように特徴的な筆遣いで南無阿弥陀佛と記されています。

祐天上人は、陸奥国磐城郡新田村で寛永14(1637)年生まれ、12歳で江戸・増上寺の壇通上人に弟子入りしましたが破門されました。それを恥じて成田山新勝寺で参籠した際に不動明王より知恵を授かり、以降才覚を發揮したといわれます。下総国大巖寺(千葉市)、同国弘経寺(茨城県常総市)、江戸・小石川の伝通院の住職を歴任し、正徳元(1711)年に75歳で増上寺36世住職となりました。正徳4(1714)年に隠居したのち、享保3(1718)年に82歳で入寂しました。奈良・東大寺大仏殿の再建や鎌倉大仏の再整備に力を注いだことで知られ、徳川五代將軍の綱吉、その生母の桂昌院、六代家宣ら幕府関係者からも深い帰依を受けました。

生涯にわたり名号の書写を続け、広く人々の求めに応じて授与したと伝えられています。久保区に伝わる名号もその一つと考えられ、名号下部に「飯沼弘経寺三十世」(写真右)と記されていることから、弘経寺の住職であった元禄13(1700)年から宝永元(1704)年の間のものかと推定されます。

なお、元禄15(1702)年に五郷内地区・樹林寺所蔵の夕顔観音が桂昌院に求められ江戸城内で御開帳された際、祐天上人も列席していたといわれています。どのような経緯で久保区にこの書跡が伝わったかは不明ですが、その頃に当地とのご縁があったのかもしれない。

生涯学習課 ☎(50)1224



◀花押など

◀祐天上人名号跡

南無阿彌陀佛